
「新しい算数」 評価規準 【3年】

単元名	学びのとびら			教科書のページ	上 p.2～7
配当時数	1 時間	活動時期	4 月中旬	学習指導要領の内容	第 2 学年の内容

時	目標	学習活動
1	・算数科の学び方, 問題解決の方法やノートをつくり方を共有したり, 教科書の使い方を確認したりして, 子どもたちが自ら教科書を有効に活用して, 主体的, 対話的で深い学びを実現できるようにする。 上p.2～7	①「もくじ」(5 分) 表紙裏～p.1 ・「前の学習」や「後の学習」が示されていることにふれ, 算数の学習はこれまでの学習を基に積み重ねられていること, 以後の学習へつながっていることに気づかせる。また, p.1 下欄を見て, 前学年までに働かせ, 成長してきた数学的な見方・考え方を想起させる。 ・表紙裏ページを見て, デジタルコンテンツが設定されていることやその使用方法, 使用上の留意点にふれる。 ②「授業ページ」(30 分) p.2～3 ・前学年までの学習で解決できる問題について, 数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実際に遂行することを通して, 算数科における学び方や問題解決の方法を認識させる。 ③「算数マイノートをつくろう」(7 分) p.4～5 ・「授業ページ」におけるノートの例を参考にしながら, ノートのつくり方を学級で共有する。 ④「“新しい算数”を使った学習の進め方」(3 分) p.6～7 ・教科書の構成や記号の意味について調べたいときには, 随時本ページを見るとよいことを伝える。 ・巻末にはオプション教材集「新しい算数 プラス」が設定されていること, その中の「ほじゅうのもんだい」(補充問題), 「ふりかえりコーナー」(知識の振り返り), 「おもしろもんだいにチャレンジ」(数学の世界での発展)があることを紹介し, 適宜活用するとよいことを知らせる。 ※「指導者・保護者のみなさまへ」について これらの記述はいずれも教科書の編集意図に加え, 子どもたちが学習習慣(特に家庭での自学自習)を身につけるためには家庭での理解・協力が不可欠であると考え, 掲載したものである。保護者の方々とも連携を図りながら, 教科書を有効に活用していただきたい。

単元名	1. 九九を見なおそう [かけ算]			教科書のページ	上 p.8～25
配当時数	9 時間	活動時期	4 月中旬～下旬	学習指導要領の内容	A(3)ア(イ)(ウ), イ(ア)内容の取扱い(3)(4)

単元の目標		乗法に関して成り立つ性質やきまりなどの理解を深め、数学的表現を適切に活用して九九の範囲を超える計算の仕方を考える力を養うとともに、乗法の計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	乗法に関して成り立つ性質やきまりを理解し、それらを活用して被乗数や乗数が 0 や 10 の乗法計算をすることができる。
	思考・判断・表現	乗法に関して成り立つ性質やきまりに着目し、九九の範囲を超える乗法の計算方法を、図や式などを用いて考え、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	九九の範囲を超える乗法の計算方法について、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) かけ算のきまり 上p.8～19 5 時間			
1	[プロローグ] 上p.8 ・乗数が 1 ずつ増減するときの乗数と積の変化の関係や乗法の交換法則の理解を深める。 上p.9～11	①九九を唱えたり、九九の問題を出し合ったり、その答えになる乗法の式を考えたりする活動を通して、九九の定着を確認するとともに、既習の九九を見直し理解を深めていくという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ①乗数と積の関係や交換法則を使って、7×4 の答えの見つけ方を考える。 ②各々の考えを発表し、他者の考えと比較する。 ③出された考えを整理し、乗数と積の関係や交換法則をまとめる。 ④適用問題に取り組む。	【知技】乗法について成り立つ性質（乗数と積の関係）やきまり（交換法則）を活用して、九九の答えを求めることができる。 【観察・ノート】 【思判表】乗法について成り立つ性質やきまりを図や式を用いて考え、説明している。【観察・ノート】
2	・乗法の分配法則（被乗数を分解）を理解し、九九の答えを求めることができる。 上p.12	①被乗数を 2 つの数に分けて、9×7 の答えの求め方を考える。 ②被乗数を分解しても積は変わらないことをまとめる。	【知技】乗法の分配法則（被乗数を分解しても積は変わらない）を用いて、九九の答えを求めることができる。【観察・ノート】 【思判表】アレイ図のドットの分け方に着目して、被乗数を分解した乗法の計算の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
3	乗法の分配法則（乗数を分解）を理解し、九九の答えを求めることができる。 上p.13	①乗数を2つの数に分けた 9×7 の答えの求め方を考え、説明する。 ②被乗数を分解しても、乗数を分解しても、積は変わらないことをまとめる。	【知技】乗法の分配法則（被乗数、乗数を分解しても積は変わらない）を用いて、九九の答えを求めることができる。【観察・ノート】 【思判表】アレイ図のドットの分け方に着目して、乗数を分解した乗法の計算の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】
4	被乗数や乗数が10のときの答えを、乗法に関して成り立つ性質やきまりを用いて考え、説明することができる。 上p.14	①10の段の答えを、累加の考えや既習の乗法の性質やきまりを用いて求める。 ②乗数が10のときの答えの求め方を乗法の性質やきまりを活用して答えを求め、九九表に記入する。	【思判表】乗数と積の関係や分配法則、交換法則を用いて、被乗数か乗数が10のときの計算の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】 【態度】乗法の性質やきまりを活用して被乗数や乗数が10のかけ算の答えを求めたことを振り返り、価値づけている。【観察・ノート】
5	〔今日の深い学び〕 被乗数が10を超える場合の答えを、乗法に関して成り立つ性質やきまりを用いて考え、説明することができる。 上p.15～19	① 12×4 の答えのいろいろな求め方を考え、図や式を使って表す。 * デジタルコンテンツ設定有 ②他者の考えを読み取り、図や式に表す。 ③分配法則を用いたり、10といくつに分けたりすると、10より大きい数の乗法の答えを求められることをまとめる。	【思判表】乗法について成り立つ性質やきまりを基に、12×4の答えの求め方を図や式を用いて考え、説明している。【観察・ノート】 【態度】主体的、対話的に学習に取り組むとともに、乗法の性質やきまりを活用して問題解決したことを振り返り、価値づけている。【観察・ノート】
(2) 0 のかけ算 上p.20～21 1時間			
6	被乗数や乗数が0の場合の式の意味を理解し、計算の答えを求めることができる。 上p.20～21	①問題場面をとらえ、被乗数や乗数が0の場合の乗法の式について考える。 ②被乗数や乗数が0の場合も乗法の式に表せること、答えは0になることを確認し、まとめる。 ③表を基に、得点の取り方を式に表す。 ④式を基に、得点の取り方を考える。	【知技】0を含む乗法の式の意味を理解し、計算の答えを求めることができる。【観察・ノート】 【思判表】乗法に関して成り立つ性質などを用いて、被乗数や乗数が0の場合に乗法の答えが0になることを説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(3) かける数とかけられる数 上p.22 1時間			
7	$a \times \square = b$, $\square \times a = b$ の $\square$ にあてはまる数を九九を用いて求めることができる。 上p.22	①被乗数，または乗数が未知数の式で，乗法九九を適用して未知数を求める。	【知技】 九九表を用いたり順に数をあてはめたりして， $a \times \square = b$, $\square \times a = b$ の $\square$ にあてはまる数を求めることができる。 【観察・ノート】
まとめ 上p.23～25 2時間			
8	単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し，問題を解決する。 上p.23	[いかしてみよう] ①九九の答えを活用した模様づくりに取り組む。	【思判表】 学習内容を適切に活用して筋道立てて考え，問題を解決している。 【観察・ノート】 【態度】 学習内容を生かそうとしている。 【観察・ノート】
9	学習内容の定着を確認するとともに，数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.24～25	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】 基本的な問題を解決することができる。 【観察・ノート】 【思判表】 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら，単元の学習を整理している。 【観察・ノート】 【態度】 単元の学習を振り返り，価値づけたり，今後の学習に生かそうとしていたりしている。 【観察・ノート】

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	上 p.26
配当時数	—	活動時期	4月下旬	学習指導要領の内容	—

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	既習内容の理解を確認する。 上p.26	①「おぼえているかな？」に取り組む。	【知技】 既習内容に関する問題を解決することができる。 【観察・ノート】

単元名	2. 時こくと時間のもとめ方を考えよう [時こくと時間のもとめ方]			教科書の ページ	上 p.27～33, 144
配当時数	4 時間	活動時期	4 月下旬	学習指導要 領の内容	C(2)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		秒について知り、時間に関する理解を深めるとともに、数学的表現を適切に用いて時刻や時間の求め方を考える力を養い、それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	秒について知り、他の時間の単位との関係を理解するとともに、時刻や時間を求めることができる。
	思考・判断・表現	時間の単位に着目し、時間を既習の量と統合的にとらえるとともに、図などを用いて時刻や時間の求め方を考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	時刻や時間に関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 時こくと時間のもとめ方 上p.27～31 2 時間			
1	[プロローグ] 上p.27 ・ある時刻から一定時間後の時刻や 2 つの時刻の間の時間を求めることができる。 上p.28～29	①時刻や時間について、町探検の計画を立てる場面を通し、時刻や時間の求め方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ②8 時 40 分から 30 分後の時刻や、9 時 50 分から 10 時 10 分までの時間を、模型時計や数直線を手がかりにして求める。 * デジタルコンテンツ設定有	[知技]2 つの時刻の間の時間を求めることができる。【観察・ノート】 [思判表]模型時計や数直線を用いて、ある時刻から一定時間後の時刻の求め方を考え、説明している。【観察・ノート】
2	・ある時刻から一定時間前の時刻や時間と時間の和を求めることができる。 上p.30～31	①11 時 10 分の 30 分前の時刻を、模型時計や数直線を手がかりにして求める。 ②40 分と 30 分を合わせた時間を、数直線を手がかりにして求める。	[知技]時間の和を求めることができる。【観察・ノート】 [思判表]模型時計や数直線を用いて、ある時刻から一定時間前の時刻の求め方を考え、説明している。【観察・ノート】
(2) 短い時間 上p.32 1 時間			
3	・時間を表す単位「秒」について知り、分と秒の単位関係を理解する。 上p.32	①1 分より短い時間の表し方について考える。 ②時間の単位「秒」や、1 分＝60 秒の関係を知る。 ③秒の針の動きに合わせて手を打ったり、目をつぶって 1 分経過したと思ったら手を挙げたりする量感を養う活動に取り組む。	[知技]1 分＝60 秒の関係や 1 分より短い時間の表し方を理解し、1 秒や 1 分などの量感を身につけている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 上p.33, 144 1時間			
4	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.33	①「たしかめよう」に取り組む。	【知技】基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の生活や学習に生かそうとしたりしている。【観察・ノート】
【発展】 巻末 p.144 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に時刻と時間の求め方についての理解を深める。			

単元名	3. 同じ数ずつ分けるときの計算を考えよう [わり算]			教科書の ページ	上 p.34～46, 145
配当時数	9 時間	活動時期	5 月上旬～中旬	学習指導要 領の内容	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ), イ(ア)(イ)

単元の目標		除法の意味について理解し、乗法九九 1 回適用の除法計算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、除法の計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	除法が用いられる場合や除法と乗法などとの関係について知り、除法の意味について理解するとともに、除法計算をすることができる。
	思考・判断・表現	数量の関係に着目し、等分除と包含除を除法として統合してとらえるとともに、具体物や図、式を用いて計算の仕方を考え表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	除法の意味や計算方法について、式や図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 1 人分の数をもとめる計算 上p.34～38 3 時間			
1	[プロローグ] 上p.34 ・ 除法に関する用語、記号を知り、等分除の意味について理解する。 上p.35～37	①p.34 の絵を提示し、等分と不等分について話し合うことを通して、同じ数ずつ分けるときの計算を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ①同じ数ずつ分ける場面であることをとらえる。 ②12 個のクッキーを 3 人で等分すると 1 人分は何個になるかを、半具体物を操作して調べる。 * デジタルコンテンツ設定有 ③上記の操作結果を $12 \div 3 = 4$ と式に表すことを知る。	[知技] 等分除の場面を理解し、除法の式に表すことができる。【観察・ノート】 [態度] 等分除の場面をとらえ、答えの求め方を考えようとしている。【観察・ノート】
2		①適用問題に取り組む。 ②用語「わり算」を知る。	
3	・ 等分除の場面から、分け方や分けた後の数量の関係を式に表し、答えの見つけ方を考え、説明することができる。 上p.37～38	① $20 \div 5$ の答えを半具体物を使わずに見つける方法を考える。 ② $\square \times 5 = 20$ の式から除数の段の九九を使うと答えが見つけられることをまとめる。	[知技] 等分除の答えの求め方を理解し、乗法九九を使って答えを求めることができる。【観察・ノート】 [思判表] 等分除の答えの見つけ方について、乗法九九を使えばよいことを図や式などを用いて考え、説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(2) 何人に分けられるかをもとめる計算 上p.39～43 4時間			
4	・包含除の場面も除法の式に表されることが、包含除の意味について理解する。 上p.39～41	①等分除との違いを確認する。 ②12個のパイを1人に3個ずつ分けると何人に分けられるかを半具体物を操作して調べる。 * デジタルコンテンツ設定有 ③上記の操作結果を $12 \div 3 = 4$ と除法の式に表すことを理解する。	[知技] 包含除の場面を理解し、除法の式に表すことができる。 【観察・ノート】 [態度] 包含除の場面をとらえ、答えの求め方を考えようとしている。 【観察・ノート】
5		①用語「わられる数」「わる数」を知る。 ②適用問題に取り組む。	
6	・包含除の場面から、分け方や分けた後の数量の関係を式に表し、答えの見つけ方を考え、説明することができる。 上p.41～42	① $20 \div 5$ の答えを半具体物を使わずに見つける方法を考える。 ② $5 \times \square = 20$ の式から除数の段の九九を使うと答えが見つけられることをまとめる。	[知技] 包含除の答えの求め方を理解し、乗法九九を使って答えを求めることができる。 【観察・ノート】 [思判表] 包含除の答えの見つけ方について、乗法九九を使えばよいことを図や式などを用いて考え、説明している。 【観察・ノート】
7	・等分除と包含除を、「わり算」として統合的にとらえ、除法計算の答えを求めることができる。 上p.43	① $6 \div 2$ の式になる問題をつくる。 ②等分除と包含除の問題を比べる。	[知技] 除法の答えを、乗法九九を使って求めることができる。 【観察・ノート】 [思判表] 操作や答えの見つけ方などから、等分除と包含除をどちらも除法として関連づけてとらえ、除法には2種類の場面があることを説明している。 【観察・ノート】
(3) 0 や 1 のわり算 上p.44 1時間			
8	・被除数が0の場合や被除数と除数が同じ数の場合の除法計算ができる。 上p.44	①クッキーを4人で分けたときの1人分の数を求める場面で、クッキーが8個、4個のときを順に考え、1個もないときは何個になるかを考える。 ②クッキーが1個もないときも $0 \div 4 = 0$ と除法の式に表すことを知る。	[知技] $a \div a = 1$, $0 \div a = 0$, $a \div 1 = a$ などの式の意味を理解し、これらの計算ができる。 【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 上p.45～46, 145 1時間			
9	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.45～46	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】 基本的な問題を解決することができる。 【観察・ノート】 【思判表】 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 【観察・ノート】 【態度】 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。 【観察・ノート】
・【発展】 巻末 p.145 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に除法の活用についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	上 p.47
配当時数	—	活動時期	5 月中旬	学習指導要領の内容	—

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	既習内容の理解を確認する。 上p.47	①「おぼえているかな？」に取り組む。	【知技】 既習内容に関する問題を解決することができる。 【観察・ノート】

単元名	4. 大きい数の筆算を考えよう [たし算とひき算の筆算]			教科書の ページ	上 p.48～57, 146
配当時間	8 時間	活動時期	5 月下旬～ 6 月上旬	学習指導要 領の内容	A(2)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(2)

単元の目標		3～4 位数の加減法の筆算の仕方を理解しその技能を身につけ、既習の数の構成や筆算の仕方を活用して筆算の仕方を考える力を養うとともに、筆算の仕方をまとめた過程を振り返り、既習と統合的にとらえようとしたり今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	3～4 位数の加減法の筆算は、2 位数などの基本的な加減法の筆算の仕方を基に考えればよいことを理解し、それらの計算をすることができる。
	思考・判断・表現	数の構成に着目し、2～3 位数の加減法の筆算の仕方を活用して 3～4 位数の加減法の筆算の仕方を図や式などを用いて考え表現し、筆算の仕方を一般化してまとめている。
	主体的に学習に 取り組む態度	3～4 位数の加減法の筆算の仕方を、既習の筆算の仕方や、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 3 けたの数のたし算 上p.48～50 2 時間			
1	[プロローグ] 上p.48 ・ 3 位数+3 位数の筆算の仕方を、数の構成や既習の加法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上p.49～50	①p.48 の式や筆算を提示し、今までに学んできた加減計算について振り返るとともに、新たな課題となる 3～4 位数の加減計算について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ①問題場面をとらえ、図を基に式を立てる。 ②既習内容を基に、$365+472$ の筆算の仕方を考える。 ③筆算の仕方（繰り上がりなし、一の位または十の位で繰り上がりあり）をまとめる。	[知技]筆算形式による 3 位数の加法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【観察・ノート】 【思判表】3 位数の加法の筆算の仕方を、2 位数の加法の筆算を基に類推し、図や式で説明している。 【観察・ノート】 【態度】既習の加法の筆算を基に類推し、3 位数の加法の筆算の仕方を考えようとしている。【観察・ノート】
2	・ 3 位数+3 位数の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 上p.50	①$347+178$, $763+459$ の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方（一、十の位で繰り上がりあり、各位で繰り上がりあり）をまとめる。 ③練習問題に取り組む。	[知技]筆算形式による 3 位数の加法計算ができる。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(2) 3 けたの数のひき算 上p.51～53 3 時間			
3	・ 3 位数－3 位数の筆算の仕方を、数の構成や既習の減法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上p.51	①場面をとらえ、図を基に式を立てる。 ②既習内容を基に、$315-194$ の筆算の仕方を考える。 ③筆算の仕方（繰り下がりがなし、一の位または十の位へ繰り下がりがあり、一の位及び十の位へ繰り下がりがあり）をまとめる。	【知技】筆算形式による 3 位数の減法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【観察・ノート】 【思判表】3 位数の減法の筆算の仕方を、既習の筆算の仕方を基に類推し、図や式で説明している。 【観察・ノート】 【態度】既習の筆算の仕方を基に類推し、3 位数の減法の筆算の仕方を考えようとしている。【観察・ノート】
4	・ 3 位数－3 位数の筆算（波及的繰り下がりがあり）の仕方を、数の構成や既習の減法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上p.52～53	①$402-175$ の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方（一の位へ波及的繰り下がりがあり）をまとめる。 ③練習問題に取り組む。	【知技】筆算形式による 3 位数の減法の計算（一の位へ波及的繰り下がりがあり）の仕方を理解し、答えを求めることができる。【観察・ノート】 【思判表】3 位数の減法の筆算（一の位へ波及的繰り下がりがあり）の仕方を、既習の筆算の仕方を基に類推し、図や式を用いて説明している。【観察・ノート】
5	・ $1000-3$ 位数の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 上p.53	①$1000-265$ の計算の仕方を考える。 ②筆算の仕方をまとめる。	【知技】$1000-3$ 位数の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 【観察・ノート】
(3) 大きい数の筆算 上p.54～55 2 時間			
6	・ 4 位数を含む加減法の筆算の仕方を、既習の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上p.54	①$2483+7156$, $7156-2483$ の計算の仕方を考える。 ②$5102\pm 4398$ の計算の仕方を考える。 ③計算の仕方をまとめる。	【思判表】4 位数$\pm$4 位数の筆算の仕方を、既習を基に類推し、既習の筆算と統合的に考え、説明している。【観察・ノート】
7	・ 4 位数$\pm$4 位数の計算の仕方を確実に身につけ、計算することができる。 上p.55	①4 位数$\pm$4 位数などの型の計算練習をして、数が大きくなっても加減筆算の仕方は変わらないことをまとめる。	【知技】4 位数$\pm$4 位数などの答えを、筆算で確実に求めることができる。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 上p.56～57, 146 1時間			
8	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.56～57	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】 基本的な問題を解決することができる。 【観察・ノート】 【思判表】 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 【観察・ノート】 【態度】 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。 【観察・ノート】
・【発展】 巻末 p.146 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に加減法の筆算についての理解を深める。			

単元名	考える力をのばそう「重なりに注目して」			教科書のページ	上 p.58～59
配当時数	1 時間	活動時期	6 月上旬	学習指導要領の内容	A(2)(7)

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
1	2 つの量の重なる部分に着目する問題を通して、数量の関係を図に表し考える能力を伸ばす。 上p.58～59	①題意をとらえる。 ②テープ図の（ ）にあてはまる数字を書いて図を完成させる。 ③図を見て様々な立式をし、答えの求め方を考える。 ④求め方を発表し、検討する。 ⑤2つの量の重なる部分を求める問題を解く。	【思判表】 線分図を活用して2つの量の重なる部分に着目し、答えの求め方を考え、説明している。 【観察・ノート】 【態度】 数量の関係を線分図に表し、問題を解決したことを振り返り、価値づけている。 【観察・ノート】

単元名	5. 長い長さをはかって表そう [長いものの長さのはかり方と表し方]			教科書の ページ	上 p.60～69
配当時数	7時間	活動時期	6月中旬～下旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ), イ(ア)

単元の目標		量の単位や測定について理解し適切に単位を用いて長さを表したり、およその見当をつけ計器を適切に選択して測定したりすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して既習の単位を含めた単位の間関係を統合的に考える力を養い、身の回りのものの長さを測定した過程を振り返り、量感覚を身につけ、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	長さの単位（キロメートル(km)）や測定の意味を理解し、長さについての豊かな感覚をもつとともに、それらを活用して適切に長さを単位で表したりおよその見当をつけ適切な単位や計器を選択して測定したりすることができる。
	思考・判断・表現	身の回りのものの長さや長さの単位に着目し、長さの測定の方法や単位の間関係について説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	長さについての単位や計器を用いて身の回りのものの長さをはかったり、既習の単位との関係について考えたりしたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 長いものの長さのはかり方 上p.60～63 3時間			
1	[プロローグ] 上p.60	① p.60 の写真を提示し、これまで学習してきた長さの単位や測定をした経験を振り返る活動を通して、1mより長いものの測定と表し方について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
2・3	・長いものやまるいものの長さを測定するには、巻尺が適していることやその使い方を理解し、測定することができる。 上p.61～63	①運動マットの長さを測定するにはどうすればよいかを考える。 ②長いものの長さを測定するには、巻尺が適していることを知り、巻尺の目盛りの読み方を知る。 ③教室の縦と横の長さを巻尺で測定する。 ④長さの見当をつけてからいろいろなものの長さを巻尺で測定する。 ⑤測定対象に応じた計器を選択する。	[知技]巻尺を用いて、長いものやまるいものの長さを測定することができる。【観察・ノート】 [思判表]測定対象の特徴や目的に着目して、計器の選択やその使い方を考え、説明している。【観察・ノート】
(2) 長い長さのたんい 上p.64～66 1時間			
4	・距離や道のりの意味を知り、長さを表す単位「キロメートル(km)」について理解する。 上p.64～66	①「距離」と「道のり」の意味を知り、絵地図を見て距離や道のりを調べる。 ②長い道のりなどを表す単位「キロメートル(km)」を知る。 ③「ますりんつうしん」を読んで、昔の長さの単位「里」について知り、長さへの興味・関心を高める。	[知技]長さの単位（キロメートル(km)）や1km＝1000mの単位関係を理解している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 上p.67～69 3時間			
5 ・ 6	・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 上p.67	[いかしてみよう] ①10m の距離を予想し、巻尺を用いて確認する。 ②1km を歩いてかかった時間や歩数を調べ、その長さを体感する。	[知技]10m や 1km がどのくらいの長さであるかなど、量感を身につけている。【観察・ノート】 [態度]学習内容を生活に生かそうとしている。【観察・ノート】
7	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.68～69	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 [思判表]数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 [態度]単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】

単元名	6. 数をよく見て暗算で計算しよう [暗算]			教科書のページ	上 p.70～73
配当時数	3 時間	活動時期	6 月下旬	学習指導要領の内容	A(2)ア(イ), イ(ア)内容の取扱い(2)

単元の目標		2 位数どうしの加減法の暗算について理解し、計算することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して暗算による計算の仕方を考える力を養い、暗算のよさを振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	被減数が 100 の減法の暗算や 2 位数どうしの加減法を暗算で計算することができる。
	思考・判断・表現	数の構成や加減法に関して成り立つ性質に着目して、暗算による計算の仕方を工夫して考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	2 位数どうしの加減法を暗算で計算したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 暗算 上p.70～73 3 時間			
1	[プロローグ] 上p.70 ・被減数が 100 の暗算の仕方を、数の構成を基に考え、説明することができる。 上p.71～72	①教科書 p.70 の写真を見て、筆算を用いずに代金やおつりを求める活動を通して、工夫して計算することで筆算を用いずに加減の計算をすることができるようになるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ①100－79 の計算を暗算でする方法を考え、説明する。 ②問題場面を理解し、100－62 の計算などを暗算でする方法を考え、説明する。	【思判表】100 の数の構成に着目して、被減数が 100 の暗算による計算の仕方を考え、説明している。 【観察・ノート】 【態度】主体的に問題解決に取り組むとともに、日常における暗算のよさを振り返り、学習に生かそうとしている。【観察・ノート】
2	・数の構成を基に、2 位数どうしの加減法の暗算による計算の仕方を説明することができる。 上p.72～73	①44＋29 や 52－38 の暗算の仕方を考え、説明する。	【思判表】数の構成に着目して、暗算による 2 位数どうしの減法の計算の仕方を工夫して考え、説明している。【観察・ノート】
3	・2 位数どうしの加減法の暗算による計算の仕方を理解し、その暗算をすることができる。 上p.73	①2 位数どうしの加減法を暗算を用いて計算する。	【知技】数の構成を用いて 2 位数どうしの加減法を暗算で計算することができる。【観察・ノート】

単元名	7. わり算を考えよう [あまりのあるわり算]			教科書のページ	上 p.74～83, 146
配当時数	7 時間	活動時期	7 月上旬～中旬	学習指導要領の内容	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ), イ(ア)(イ)

単元の目標		わり切れない場合の除法や余りについて理解し、計算することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、除法の意味や計算の仕方を具体物や図、式を用いて表す力を養うとともに、問題場面における数量の關係に着目し、数理的に処理した過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	わり切れない場合の除法の計算や余りと除数の大小關係について理解し、それらを活用して数量の關係をとらえることができる。
	思考・判断・表現	数量の關係に着目し、わり切れる場合とわり切れない場合の除法を統合してとらえ、除法の意味や計算に成り立つ性質について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	日常生活の問題を解決した過程や得られた結果を吟味したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) あまりのあるわり算 上p.74～80 5 時間			
1	[プロローグ] 上p.74 ・ 除数と商が 1 位数の除法で、わり切れない場合の計算の仕方を理解する。 上p.75～76	①教科書 p.74 のイラストを見て、既習の余りのない除法の計算についての話し合いを通して、余りのある除法の意味や計算の仕方を考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ①14÷3 の答えの見つけ方を考える。 ②計算結果を式に表すと $14 \div 3 = 4$ 余り 2 となることを知る。 ③わり算には、わり切れるときとわり切れないときがあることを知る。	[知技]既習の除法の計算方法を用いて、わり切れない場合の除法についても計算することができる。【観察・ノート】 [思判表]わり切れない場合の除法の計算の仕方について、既習のわり切れる場合の除法を基に考え、図や式を用いて説明している。【観察・ノート】
2	・ 余りと除数の關係を理解する。 上p.77	①13÷4 の計算について余りと除数の關係を調べる。	[知技]余りが除数より小さくなることを理解し、計算することができる。【観察・ノート】
3	・ 等分除の計算についても、包含除の計算の方法を基に考え、説明することができる。 上p.78	①題意をとらえ、$16 \div 3$ と立式し、答えの見つけ方を考える。 ②文章問題に取り組む。	[思判表]わり切れない場合の等分除の計算の仕方を、既習の等分除の計算の仕方を基に考え、具体物や図、式などを用いて説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
4	・わり切れない場合の除法の計算について、答えの確かめ方を理解する。 上p.79	①わり切れない場合を含む除法の答えの確かめ方を考える。	【知技】わり切れない場合の除法の答えの確かめ方を理解している。【観察・ノート】
5	・わり切れない場合を含む、除法の計算ができる。 上p.80	①計算練習と答えの確かめをする。 * デジタルコンテンツ設定有	【知技】わり切れない場合の除法の計算の商や余りを求めたり、確かめたりすることができる。【観察・ノート】
(2) あまりを考える問題 上p.81 1時間			
6	・余りのとらえ方について理解を深める。 上p.81	①題意をとらえ、 $23 \div 4$ と立式し、計算して答えを求める。 ②計算では5余り3だが、答えを5としてよいか話し合う。 ③答えは商+1になることをまとめる。 ④題意をとらえ、 $30 \div 4$ と立式し、計算して答えを求める。 ⑤計算では7余り2だが、商をそのまま答えとしてよいか、それとも商+1とすべきかを話し合う。	【思判表】商や余りの意味に着目して、問題に応じた商の処理の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】 【態度】計算した結果を吟味したことを振り返り、学習に生かそうとしている。【観察・ノート】
まとめ 上p.82~83, 146 1時間			
7	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.82~83	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】
・【発展】巻末 p.146 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に余りと規則性についての理解を深める。			

単元名	8. 10000 より大きい数を調べよう [大きい数のしくみ]			教科書の ページ	上 p.84～97, 147
配当時数	10 時間	活動時期	9 月上旬～中旬	学習指導要 領の内容	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(1)

単元の目標		万の単位や1億までの整数について知り、十進位取り記数法や4桁区切りによる命数法（万進法）を基に、大きな数の読み方や計算の仕方を考えるとともに、整数の表し方について数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	万の単位や1億までの整数を知り、十進位取り記数法についての理解を深めるとともに、10倍、100倍、1000倍、1/10にした数や、数や式の相等、大小関係を等号や不等号を用いて表す方法を理解している。
	思考・判断・表現	数の構成や仕組みに着目し、万の単位を用いた数の仕組みについて類推して考え、大きな数の大小の比べ方や表し方を統合的にとらえ、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	1億までの数の仕組みや表し方について、統合的にとらえた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 数の表し方 上p.84～93 7時間			
1	[プロローグ] 上p.84	①教科書 p.84 の写真を提示し、身の回りで見かける大きい数を読んだり表したりする活動や既習の大きい数についての自由な話し合いなどを通して、「10000」より大きい数について考えるという単元の課題を設定する。 (所要時間は10分程度)	
	・一万の位までの数の読み方や書き方、構成や命数法について、数の見方や既習の整数の表し方を基に考え、理解する。 上p.85～86	①絵を見て、入場券の枚数を数える。 ②24153 の数の構成と命数法をまとめる。 ③入場券の枚数を数字で表す。 ④「一万の位」を知る。 * デジタルコンテンツ設定有	【知技】既習の整数の表し方を用いて、一万の位までの数の読み方や書き表し方を理解している。【観察・ノート】 【態度】十進位取り記数法のよさに気づき、一万の位までの数について、既習の整数の学習から類推して考えようとしている。【観察・ノート】
2	・十万、百万、千万の数の仕組みと千万の位までの読み方や書き方、数の構成について理解する。 上p.87～88	①一万を10こ集めた数を「十万」といい、「100000」と書くことを知る。 ②一万～千万の数の仕組みを考え、それぞれ10こ分の関係になっていることをまとめる。 ③一万の位の左から順に「十万の位、百万の位、千万の位」ということを知る。	【知技】千万の位までの数を読んだり、書いたりすることができる。【観察・ノート】 【思判表】100000より大きい数についても、既習の数と同じように考えられることに着目し、数の仕組みを説明している。【観察・ノート】
3		①適用問題に取り組む。	

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
4	・数の相対的な大きさについて、1000 を基に考え、説明することができる。 上p.89	①1000 を 23 こ集めた数はいくつかを考える。 ②34000 は 1000 を何こ集めた数かを考える。	【思判表】1 万以上の数を、1000 を単位として着目し、数の相対的な大きさについて考え、説明している。【観察・ノート】
5	・1 万より大きい数の大小や順序について理解し、「一億」について知る。 上p.90～91	①数直線を基に、数の大小や順序について考える。 ②「一億」について知る。	【知技】既習の数の表し方の仕組みを用いて、「一億」(100000000)について理解している。【観察・ノート】 【思判表】数直線に表される数の大小に着目して、1 万より大きな数を数直線に表す方法を考え、説明している。【観察・ノート】
6	・数や式の相等関係や大小関係の表し方を理解する。 上p.92	①数の構成に基づく、大きい数の計算の仕方を考える。 ②□にあてはまる、「=、>、<」の記号を書く。 ③「等号」「不等号」の用語と意味についてまとめる。	【知技】「=」や「>、<」の等号や不等号を用いて、数や式の相等関係や大小関係を表すことを理解している。【観察・ノート】 【思判表】数の相対的な大きさの見方(1000 や 10000 の何こ分か)に着目して、計算の仕方を工夫し、説明している。【観察・ノート】
7	・数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。 上p.93	①16000 について、いろいろな表し方を考え、言葉や式で表す。 ②式に表された、他者の考えを読み取り、表現する。	【思判表】数の構成を基に、数の多様な見方について考え、表現している。【観察・ノート】
(2) 10 倍した数と 10 でわった数 上p.94～95 2 時間			
8	・整数を 10 倍した数、10 でわった数の表し方を理解する。 上p.94～95	①25 の 10 倍の数を考える。 ②もとの数と 10 倍した数の並び方を比べる。 ③250 を 10 でわった数を考える。	【知技】十進位取り記数法の仕組みを基に、10 倍した数や 10 でわった数は、もとの数の位を 1 つ上げたり、下げたりした数になることを理解している。【観察・ノート】
9	・100 倍、1000 倍した数の表し方を位の移り方を基に説明することができる。 上p.95	①25 の 10 倍を 10 倍した数を考える。 ②25 の 10 倍を 10 倍し、さらに 10 倍した数を考える。 ③25 を 1000 倍した数を考える。 ④もとの数を 10 倍、100 倍、1000 倍した数の位の上がり方についてまとめる。	【思判表】十進位取り記数法に着目し、100 倍、1000 倍した数の表し方を考え、説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 上p.96～97, 147 1時間			
10	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.96～97	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。【観察・ノート】
【発展】 巻末 p.147 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に一億までの数についての理解を深める。			

単元名	9. 大きい数のかけ算のしかたを考えよう [かけ算の筆算(1)]			教科書の ページ	上 p.98～112, 147
配当時数	11 時間	活動時期	9 月下旬～ 10 月上旬	学習指導要 領の内容	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(2)(4)

単元の目標		2 位数や 3 位数に 1 位数をかける乗法の計算の仕方について理解し、確実に計算することや成り立つ性質について理解できるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、乗法の成り立つ性質を活用したり、計算を確かめたりしながら、計算した過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2～3 位数×1 位数の乗法の筆算の仕方を理解し、それらを活用して計算することができる。
	思考・判断・表現	数の構成や既習の乗法計算に着目し、2～3 位数×1 位数の筆算について考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	2～3 位数×1 位数の筆算の仕方について、乗法九九などの基本的な計算を基に考えたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 何十、何百のかけ算 上p.98～101 2 時間			
1	[プロローグ] 上p.98	①かけ算の表の空欄の求め方を考える活動を通して、2～3 位数に 1 位数をかける乗法の計算の仕方や性質を理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
2	・何十、何百に 1 位数をかける計算の仕方について、10 や 100 を基に考え、説明することができる。 上p.99～101	①20×3 の計算の仕方を考える。 ②その式を立てた理由を説明する。 ③200×3 の計算の仕方を考える。 ①2×3, 20×3, 200×3 の式を比較する。 ②被乗数が 10 倍になると、答えも 10 倍になっていることをまとめる。 ③被乗数が 100 倍になると答えも 100 倍になることをまとめる。	[知技]被乗数と積の比較を用いて、被乗数が 10 倍、100 倍になると、積も 10 倍、100 倍になることを理解している。【観察・ノート】 [思判表]何十、何百×1 位数の計算を 10 や 100 のまとまりや既習の乗法九九に着目して計算する方法を考え、説明している。 【観察・ノート】
(2) 2 けたの数に 1 けたの数をかける計算 上p.101～106 5 時間			
3	・2 位数×1 位数 (部分積がみな 1 桁) の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 上p.101～103	①問題場面をとらえ、立式する。 ②23×3 の計算の仕方を、アレイ図や模擬貨幣を使ったり数操作をしたりして考え、答えを求める。	[知技]2 位数×1 位数の筆算の仕方を、数の構成を基に書き方や手順を理解している。【観察・ノート】 [思判表]既習の乗法九九などに着目して、2 位数×1 位数の筆算の仕方を具体物や図、式を用いて考え、説明している。【観察・ノート】
4		①23×3 の筆算の仕方をまとめる。 ②適用問題に取り組む。	

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
5	・2位数×1位数（一の位の数との部分積が2桁）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 上p.104	①1辺16cmの正方形の周長を求める式を立てる。 ②$16 \times 4$の筆算の仕方を考える。	【知技】2位数×1位数（一の位の数との部分積が2桁）の計算が筆算を用いて求めることができる。 【観察・ノート】
6	・2位数×1位数（十の位の数との部分積が2桁、及び部分積がみな2桁）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 上p.105	①$42 \times 3$, 58×3の筆算の仕方を考える。 ②筆算の仕方をまとめる。	【知技】2位数×1位数（十の位の数との部分積が2桁、及び部分積がみな2桁）の計算が筆算を用いて求めることができる。 【観察・ノート】
7	・2位数×1位数（部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 上p.106	①$29 \times 4$, 76×4の筆算の仕方を考える。	【知技】2位数×1位数（部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり）の計算が筆算を用いて求めることができる。【観察・ノート】 【態度】筆算の仕方を振り返り、被乗数を位ごとに分けて計算するよさを感じている。【観察・ノート】
(3) 3けたの数に1けたの数をかける計算 上p.107～110 3時間			
8	・3位数×1位数（部分積がみな1桁）の筆算の仕方について、2位数×1位数の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上p.107～108	①問題場面をとらえ、立式する。 ②$312 \times 3$の計算の仕方を考える。 ③$312 \times 3$の筆算の仕方を考える。 ④筆算の仕方をまとめる。	【知技】3位数×1位数の筆算の仕方を、既習の乗法九九などを用いて考えることができる。【観察・ノート】 【思判表】2位数×1位数の筆算の仕方に着目して、3位数×1位数の筆算の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】
9	・3位数×1位数（部分積がみな2桁、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり）の筆算の仕方について、既習の乗法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。 上p.109	①$386 \times 2$の筆算の仕方を考える。 ②$937 \times 4$の筆算の仕方を考える。	【思判表】既習の乗法の筆算の仕方に着目して、3位数×1位数（部分積がみな2桁、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり）の筆算の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】 【態度】これまでの筆算の仕方を振り返り、被乗数や積の桁数が多くなっても、どの位で繰り上がりがあっても、同じやり方で求められることのよさを感じている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
10	・3つの数の乗法が1つの式に表せることを知り、乗法の結合法則について理解する。 上p.110	①問題場面をとらえ、代金の求め方について考える。 ②場面を3つの数の乗法の式で表す。 ③3つの数の乗法の結合法則をまとめる。	【知技】乗法の結合法則を用いて 5×2 を先に計算するなど、工夫して計算することができる。【観察・ノート】
まとめ 上p.111～112, 147 1時間			
11	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.111～112	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。【観察・ノート】
・【発展】巻末 p.147 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に2～3桁乗法の筆算についての理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	上 p.113
配当時数	—	活動時期	10月上旬	学習指導要領の内容	—

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	・既習内容の理解を確認する。 上p.113	①「おぼえているかな？」に取り組む。	【知技】既習内容に関する問題を解決することができる。【観察・ノート】

単元名	10. わり算や分数を考えよう [大きい数のわり算, 分数とわり算]			教科書の ページ	上 p.114～117
配当時数	4 時間	活動時期	10 月中旬	学習指導要 領の内容	A(4)ア(オ), イ(ア)(イ) (6)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方や分数と除法の関係について理解し、計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して計算方法や問題場面における分数の意味について考える力を養い、既習の計算方法や分数を除法としてみた過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	・簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について理解し、計算することができる。 ・分数で表される場面を適切にとらえ、除法を用いて答えを求めることができる。
	思考・判断・表現	・簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について、既習の計算の仕方や図などを用いて、数の構成に着目して考え、説明している。 ・等分することや分数の意味に着目して、分数で表されている場面について、除法を用いて計算することを考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	・簡単な場合の2位数÷1位数の計算の仕方について、具体物や図、式を関連づけたり、既習の計算の仕方などを基に考えたりしながら、その過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。 ・分数と除法の関係やもとの数と分数の関係を考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 大きい数のわり算 上p.114～115 2時間 ※本小単元の内容は、「スパイラルのため重複させる内容」であり、次学年で確実な習得をねらう。			
1	・60÷3などの計算の仕方を、既習の除法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。 上p.114	①60÷3の計算の仕方を、60を10の6こ分ととらえて既習の計算を使って考える。 ②適用問題に取り組む。	【知技】 簡単な場合の何十÷1位数の計算の仕方について理解している。 【観察・ノート】 【思判表】 60÷3などの計算の仕方を、図や式を用いて、被除数の数の構成に着目して考え、説明している。 【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
2	・ $69 \div 3$ などの計算の仕方を、既習の除法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。 上p.115	① $69 \div 3$ の計算の仕方を、69 を 60 と 9 に分けて考える。 ② 適用問題に取り組む。	【知技】簡単な場合の 2 位数 $\div$ 1 位数の計算の仕方について理解している。 【観察・ノート】 【思判表】 $69 \div 3$ などの計算の仕方を、図や式を用いて、被除数の数の構成に着目して考え、説明している。【観察・ノート】 【態度】図や式を関連づけ、既習を基に考えたことを振り返り、学習に生かそうとしている。【観察・ノート】
(2) 分数とわり算 上p.116～117 2 時間			
3	・ 分数で表された数を除法の計算を用いて求めることができる。 上p.116	① 80cm の $\frac{1}{4}$ の長さの求め方を考える。 ② 分数で表された数を除法を用いて表すことができることを知る。	【知技】分数の「等分する」という考えを用いて、分数で表された数を計算して求めることができる。 【観察・ノート】 【思判表】等分することや分数の意味に着目して、分数で表されている場面について、除法を用いて計算することを考え、説明している。【観察・ノート】
4	・ もとの大きさが異なるものの等分した数について理解する。 上p.117	① 84cm や 88cm の $\frac{1}{4}$ の長さを求める。 ② もとの長さの $\frac{1}{4}$ の長さが異なる理由を考える。 ③ もとの大きさと分数の関係をまとめる。	【知技】もとの大きさに着目して、$\frac{1}{4}$ の長さが異なる理由を考え、説明している。【観察・ノート】 【態度】分数と除法の関係をj用いて計算することのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。【観察・ノート】

単元名	どんな計算になるのかな？			教科書の ページ	上 p.118～119
配当時数	1 時間	活動時期	10 月中旬	学習指導要 領の内容	A(2)(3)(4)

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
1	加減乗除法を適用して問題を解決することを通して、演算を決定する能力を伸ばす。 上p.118～119	①問題文を読み、それぞれどんな式を立てればよいかを考えて解決する。 ②絵を見て作問し、解決する。	【知技】問題場面を理解し、適切に立式し計算することができる。【観察・ノート】 【態度】主体的に数学的活動に取り組み、既習内容を活用して、どんな式を用いて解決すればよいかを考えようとしている。 【観察・ノート】

単元名	11. まるい形を調べよう [円と球]			教科書のページ	上 p.120～132
配当時数	8 時間	活動時期	10 月下旬	学習指導要領の内容	B(1)ア(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(6)

単元の目標		円や球を構成する要素や性質について理解し、コンパスを用いた作図や長さをはかり取ったり移したりすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して構成の仕方や身の回りのものを円や球として考える力を養い、図形をかいいたり確かめたりする活動を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとしている。
単元の観点別評価規準	知識・技能	円の中心や半径、直径について、円に関連して球の直径などを理解し、それらを活用してコンパスで円をかいいたり、等しい長さをはかり取ったり移したりすることができる。
	思考・判断・表現	円や球を構成する要素に着目し、構成の仕方や身の回りのものに図形の性質がどのように活用されているかについて考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	円や既習の図形の作図を基に模様をかくなどの活動を通して、身の回りから円や球を見つけたり、図形のもつ美しさに関心をもったりしたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 円 上p.120～127 5 時間			★他教科との関連: 英語
1	[プロローグ] 上p.120	①教科書 p.120 の写真を提示し、身の回りにある図形について振り返る活動を通して、円や球の説明ができないことに気づかせ、円や球の構成の仕方や性質をとらえるという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
	・ 中心、半径の用語を知り、円の構成の仕方や性質について理解する。 上p.121～123	①かごからの距離が同じになる並び方を考え、並び方を線で表す。 ②かごからの距離が同じになるように並ぶとき、人数が増えればきれいなまるい形になることをとらえる。	[知技] まるい形をかく活動を通して、円や中心、半径の意味を理解している。 【観察・ノート】 【思判表】 円の中心や半径の長さに着目して、円の構成の仕方や性質について考え、説明している。
2		①p.153 の簡易コンパスを使って、円をかく。 ②「円」の定義、及び「中心」「半径」の意味を知る。 ③1つの円に半径となる線をたくさんひいて、半径は無数にあることや、どれも同じ長さであることを確認する。 ④身の回りから、円の形をしたものを探す。	【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
3	・直径の意味や直径と半径の関係を理解する。 上p.123～124	①円の中心の見つけ方を考える。 ②「直径」の意味を知る。 ③直径と半径の長さの関係をまとめる。 ④円周上の2点を結ぶ直線のうち、最長のものが直径であることを確認する。	【知技】紙で円を作り、半分に折る活動を通して、直径や直径と半径の関係を理解している。【観察・ノート】 【思判表】半径や直径の意味に着目して、円の中心の見つけ方を考え、説明している。【観察・ノート】
4	・コンパスを使って、円をかくことができる。 上p.125	①円をかくにはコンパスを使うと便利であることを知る。 ②コンパスの使い方に注意して、指定された半径の円をかく。 * デジタルコンテンツ設定有 ③コンパスを使って、模様作りに取り組む。	【知技】コンパスを用いて、指定された半径の円やその一部を使った模様をかくことができる。【観察・ノート】
5	・コンパスは等しい長さをはかり取ったり移したりすることができることを理解する。 上p.126～127	①直線と折れ線の長さを比較する方法を考える。 ②コンパスの機能をとらえ、長さの比較に用いる。 ③p.127の絵を使って、コンパスの機能を活用し、指定された場所を探す活動に取り組む。	【知技】コンパスを用いて、等しい長さをはかり取ったり、移したりすることができる。【観察・ノート】 【態度】コンパスの機能を知り、活用するよさを価値づけている。【観察・ノート】
(2) 球 上p.128～129 1時間			
6	・球の特徴について理解する。 上p.128～129	①ボールなどの具体物を真上や真横から観察する。 ②球の特徴を調べる。 * デジタルコンテンツ設定有 ③「球」や球の「中心」、「半径」、「直径」について知る。 ④球の形をしたものの直径の長さをはかる。 ⑤「ますりんつうしん」を読んで、「直径」「半径」の漢字の意味を知り、用語の意味の理解を深める。	【知技】どこから見ても円に見える形を「球」ということや球の中心や半径、直径の意味、球はどこを切っても切り口が円になることを理解している。【観察・ノート】
まとめ 上p.130～132 2時間			
7	・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 上p.130	【いかしてみよう】 ①コンパスで円をかく活動を通して模様をかき、こまを作る。 ②円と球の関係を具体物を用いて考える。	【思判表】学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。 【観察・ノート】 【態度】学習内容を生活に生かそうとしている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
8	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 上p.131～132	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】

単元名	かたちであそぼう「タングラム」		教科書のページ	上 p.134
配当時数	—	活動時期	—	学習指導要領の内容

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	基本図形を組み合わせていろいろな形を作る活動を通して、図形に親しみ、その楽しさを味わう。 上p.134	①正方形を 7 分割した基本図形を使って、他の基本図形やいろいろな具体物の形を作る。 * デジタルコンテンツ設定有	【思判表】形の特徴に着目して、いろいろな図形を組み合わせた形の作り方を考え、表現している。【観察・ノート】 【態度】基本図形を工夫して組み合わせていろいろな形を作ろうとしている。【観察・ノート】

単元名	12. 数の表し方やしくみを調べよう [小数]			教科書のページ	下 p.2～20
配当時数	12 時間	活動時期	11 月上旬～中旬	学習指導要領の内容	A(5)ア(7)(イ), イ(7)

単元の目標		小数の意味や表し方について理解し、加法及び減法の計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して小数の表し方や仕組み、計算の仕方を整数の十進構造と関連づけて考え、小数の意味や表し方について振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	端数部分の大きさを表す際に小数を用いることや小数の仕組みについて理解し、それらを活用して $1/10$ の位までの小数の加減法の計算をすることができる。
	思考・判断・表現	数の表現や数のまとまりに着目し、小数の記数法は整数の十進位取り記数法を拡張したものにとらえ、数の大小関係や加減法の計算について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	小数の意味や表し方、加減法の計算の仕方について、図や式などの数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 1 より小さい数の表し方 下p.2～7 4 時間			
1	[プロローグ] 下p.2 ・整数で表せない端数部分の大きさの表し方を、既習の数の仕組みや単位の学習に着目して考え、説明することができる。 下p.3～5	①p.2 の写真を提示し、身の回りにある数の並びが同じで小数点のあるものとなないものの数を話題として取り上げ、話し合い活動を通して、小数の表し方や仕組みを理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ①水を 1L のますではかったときの 1L に満たないはしたのかさの表し方を考える。 ②1L を 10 等分した 1 こ分のかさを「0.1L」ということを知る。 ③はしたのかさはその 3 こ分で 0.3L, 1L と合わせて 1.3L になることを知る。	[知技]数の仕組みや「等分する」ことに着目して、かさの小数による表し方を理解している。【観察・ノート】 [思判表]1L を 10 等分したかさ 0.1L に着目して、端数部分の水のかさの表し方を考え、説明している。【観察・ノート】
2		①前時の学習を振り返りながら小数を使ってはしたの大きさを表す。 ②用語「小数」「小数点」「整数」を知る。	[知技]小数の意味や「小数点」、「整数」の意味を理解している。【観察・ノート】 [思判表]1dL = 0.1L であることに着目して、dL で表される水のかさを小数を用いて L で表す方法を考え、説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
3	・長さ(cm)の端数部分の表し方を水のかさを小数で表したことに基に考え、説明することができる。 下p.6	①8cm7mm のテープの長さを cm 単位で表すことを考える。 ②長さや重さの量について、小数を使った単名数での表し方を考える。	【知技】長さについて、小数の仕組みを用いて mm 部分をcm単位で表すことができる。【観察・ノート】 【思判表】0.1cm について、0.1L と同様に基にする大きさを10等分した1つ分の大きさとして統合的にとらえている。【観察・ノート】
4	・数直線の1目盛りの大きさに着目して、数直線上の小数を表す目盛りを読んだり、小数を数直線に表したりする方法を考え、説明することができる。 下p.7	①数直線に表された小数を読んだり、数直線に小数を表したりする。 ②小数の相対的な大きさについて考える。	【思判表】1目盛りの大きさに着目して、既習の数直線と同様に数直線上の小数の読み方や表し方を考え、説明している。【観察・ノート】 【態度】既習の数直線を基に、小数の表し方や読み方を考えたことを振り返り、学習に生かそうとしている。【観察・ノート】
(2) 小数のしくみ 下p.8～9 2時間			
5	・用語「小数第一位」を知り、小数の位取りの仕組みや数の構成を理解する。 下p.8	①147.2の構成について考える。 ②用語「小数第一位」を知る。 ③位取り板と数カードを使って、147.2の構成をとらえる。	【知技】小数の各位の数字は、それぞれ100, 10, 1, 0.1などの単位の個数を表していることを理解している。【観察・ノート】
6	・小数の大小関係について理解する。 下p.9	①数直線を使って、小数の大小を考える。 ②小数の大小を比較する時には、整数の場合と同じように、位の数字に着目すればよいことをまとめる。	【知技】数直線や数の仕組みを用いて、小数の大小関係を理解し、比較することができる。【観察・ノート】 【思判表】整数の大小関係と同様に、数直線を活用したり、小数の相対的な大きさや数の構成に着目したりして、小数の大小関係を考え、説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(3) 小数のしくみとたし算, ひき算 下p.10~12 3時間			
7	・ 小数の表し方と仕組みに着目し, 小数第一位どうしの小数の加法の計算方法を考え, 説明することができる。 下p.10	①場面をとらえ, 立式する。 ②$0.3+0.2$ の計算の仕方を, 0.1 をもとにして $3+2$ の計算に帰着して考える。 ③既習の $30+20$ と $0.3+0.2$ を統合的にとらえる。	【知技】 小数第一位どうしの加法計算の仕方を理解し, 答えを求めることができる。【観察・ノート】 【思判表】 小数の仕組み (0.1 の何こ分) に着目し, 小数第一位どうしの加法計算の仕方を整数の計算に帰着して考え, 説明している。【観察・ノート】
8	・ 小数の表し方と仕組みに着目し, 小数第一位どうしや1から小数をひく減法計算の仕方を考え, 説明することができる。 下p.11	①場面をとらえ, 立式する。 ②前時の学習を使って, $0.5-0.2$ や $1-0.4$ の計算の仕方を考える。 ③前時と同様に, $0.5-0.2$ の計算を, 0.1 をもとにして $5-2$ の計算に帰着して考える。 ④$0.1$ をもとにすると, 小数の加減法の計算は整数の加減法の計算方法に帰着して考えられることをまとめる。	【知技】 小数第一位どうしの加法計算の仕方を理解し, 答えを求めることができる。【観察・ノート】 【思判表】 小数の仕組み (0.1 の何こ分) に着目し, 小数第一位どうしの減法計算の仕方を整数の計算に帰着して考え, 説明している。【観察・ノート】
9	・ 小数第一位までの小数の加減法の筆算の仕方を理解し, それらの計算をすることができる。 下p.12	①$2.5+1.8$ の筆算の仕方を考える。 ②小数第一位までの小数の加法の筆算の仕方をまとめる。 ③$4.3-1.8$ の筆算の仕方を考える。 ④$1.2+2.8$, $4.2-3.5$, $5-1.4$ の筆算の仕方を考える。 * デジタルコンテンツ設定有	【知技】 小数第一位までの小数の加減法の筆算の仕方を理解し, 答えを求めることができる。【観察・ノート】 【思判表】 小数の仕組みや整数の筆算を基に, 小数の加減法の筆算の仕方を考え, 説明している。【観察・ノート】
(4) 小数のいろいろな見方 下p.13~17 1時間			
10	〔今日の深い学び〕 ・ 小数の仕組みや数の構成に着目し, 小数について多様な見方や表し方を考え, 表現することができる。 下p.13~17	①$2.8$ を数直線に表し, いろいろな見方や表し方を考える。 ②他者の考えを読み取り, 図や式や数直線で表す。 ③$2.8$ は, 数の構成や相対的な大きさを基にするといろいろな表し方ができることをまとめる。	【思判表】 小数の仕組みや数の構成に着目し, 数直線や式を用いて, 2.8 の多様な見方や表し方について考え, 説明している。【観察・ノート】 【態度】 主体的, 対話的に問題解決に取り組むとともに, 小数の仕組みや数の構成を活用して問題解決したことを振り返り, 価値づけている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 下p.18～20 2時間			
11	・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 下p.18	[いかしてみよう] ①小数を用いて表された身の回りの道のりや距離を読み取り、問題解決に取り組む。	[思判表]学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。 【観察・ノート】 [態度]学習内容を生活に生かそうとしている。【観察・ノート】
12	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下p.19～20	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 [思判表]数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 [態度]単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	下 p.21
配当時数	—	活動時期	11 月中旬	学習指導要領の内容	—

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	・既習内容の理解を確認する。 下p.21	①「おぼえているかな？」に取り組む。	[知技]既習内容に関する問題を解決することができる。【観察・ノート】

単元名	13. 重さをはかって表そう [重さのたんいとはかり方]			教科書の ページ	下 p.22～34, 125
配当時数	9 時間	活動時期	11 月中旬～ 下旬	学習指導要 領の内容	C(1)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(7)

単元の目標		重さの単位と測定について理解し、適切に単位を用いて重さを表したり、およその見当をつけ計器を適切に選択して測定したりできるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して単位の関係を統合的に考える力を養い、重さの表し方について考えた過程を振り返り、量感覚を身につけ、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	重さについて、単位や単位の関係を理解し、およその見当をつけ、適切な計器を選んで測定することができる。
	思考・判断・表現	身の回りのものの重さやその単位に着目し、量感覚を身につけたり、単位の関係を統合的に考え、説明したりしている。
	主体的に学習に 取り組む態度	身の回りにあるものの重さやそれらを数値化することのよさ、普遍単位の必要性を振り返り、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 重さのくらべ方 下p.22～25 3 時間			★他教科との関連: 理科
1	[プロローグ] 下p.22	①p.22 の写真を提示し、物の大きさと重さ、重さの保存性、つり合い（重い方に傾くことなど）についての話し合い活動を通して、重さの比較や測定について理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
2	・身の回りのものの重さについて、道具やもとにする大きさを定め、比較する方法を考え、説明することができる。 下p.23～24	①いろいろな文房具などの重さの比べ方を考える。 ②どちらがどれだけ重いかを調べる方法を考える。 ①積み木や一円玉など、適当な任意単位を使って比べ、表にまとめる。 ②1 円玉と自作天びんを使って、いろいろなものの重さを測定する。	【思判表】任意単位を用いることで身の回りのものの重さを数値化して表し、比較する方法を考え、説明している。【観察・ノート】 【態度】身の回りのものの重さを計測し、数値化して表すことを通して、数値化することのよさに気づき、学習に生かそうとしている。【観察・ノート】
3	・単位の必要性を認め、重さを表す単位「グラム (g)」を用いて、身の回りの重さについて表し方を理解する。 下p.25	①重さの単位「グラム(g)」を知る。 ②測定前におよその見当をつける。	【知技】重さの単位「g(グラム)」を用いて、身の回りの重さを表したり、およその重さの見当をつけたりすることができる。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(2) はかりの使い方 下p.26～32 5時間			
4	・重さを測定する計器としてはかりがあることを知り、目盛りの読み方を理解する。 下p.26～27	①重さとはかりの針の動き方の関係をとらえる。 * デジタルコンテンツ設定有 ②はかりを使う際の留意事項をまとめる。 ③秤量 1kg のはかりの目盛りの読み方を調べて、目盛りを読む。	[知技]秤量 1kg のはかりの目盛りの読み方を理解している。【観察・ノート】 [思判表]数直線と同様にはかりの目盛りが読み取れることに着目し、目盛りの読み方を考え、説明している。【観察・ノート】
5	・重さを表す単位「キログラム(kg)」, 1kg=1000g の関係を理解する。 下p.28～29	①重さの単位「キログラム(kg)」, 1kg=1000g の関係を理解する。 ②秤量 2kg のはかりの目盛りを読む。	[知技]1kg=1000g の単位関係を理解している。【観察・ノート】 [思判表]既習の秤量 1kg のはかりの目盛りの読み方を用いて、秤量 2kg のはかりの目盛りの読み方を考え、説明している。【観察・ノート】
6	・正味、風袋、全体の重さの関係を知り、重さの加法性や測定の方法の工夫について理解する。 下p.30	①荷物の重さや箱の重さ、全体の重さの関係を線分図を用いて整理し、計算する。 ②いろいろなものを使って、1kg をつくる活動に取り組む。	[知技]正味、風袋、全体の重さの関係に着目して、重さを求めたり、1kg の量感を身につけたりしている。【観察・ノート】 [態度]重さの関係に着目し、重さの加法性や測定したことを振り返り、生活に生かそうとしている。【観察・ノート】
7	・重い物の重さを表す単位「トン(t)」, 1 t =1000kg の関係を理解する。 下p.31	①重さの単位「トン(t)」, 1t=1000kg の関係を理解する。 ②6000kg, 3000kg, 2100kg を t を使って表す。	[知技]重さの単位「トン(t)」, 1t=1000kg について理解している。【観察・ノート】
8	・長さや重さ、体積などの既習の単位について、それぞれの量の単位の関係を基に考え、接頭語と単位の関係について説明することができる。 下p.32	①既習の単位を振り返り、接頭語「キロ(k)」 「ミリ(m)」に着目する。 ②接頭語キロ(k)が 1000 倍を意味していることや 1mL のように接頭語ミリ(m)がつく単位で表される量を 1000 倍するとミリ(m)がとれて 1L となることなどをおさえる。 ③単位の関係を活用した単位換算に取り組む。	[思判表]既習の長さや重さ、かさについての単位とその接頭語に着目して、それぞれの量の単位の関係を考え、説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 下p.33～34, 125 1時間			
9	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下p.33～34	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】 基本的な問題を解決することができる。 【観察・ノート】 【思判表】 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 【観察・ノート】 【態度】 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。 【観察・ノート】
・【発展】 巻末 p.125 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に重さについての見方や考え方を広げる。			

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	下 p.35
配当時数	—	活動時期	11 月下旬	学習指導要領の内容	—

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	既習内容の理解を確認する。 下p.35	①「おぼえているかな？」に取り組む。	【知技】 既習内容に関する問題を解決することができる。 【観察・ノート】

単元名	14. 分数を使った大きさの表し方を調べよう [分数]			教科書の ページ	下 p.36～49, 126
配当時数	10 時間	活動時期	12 月上旬～ 中旬	学習指導要 領の内容	A(6)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(5)

単元の目標		分数の意味や分数を用いた大きさの表し方を理解し、分数の加法及び減法の計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して分数での端数の表し方や小数との関係を考える力を養い、分数の仕組みを用いて考えた過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	端数部分を表す数や大きさを表す数としての分数やその表し方を理解し、それらを活用して分数の加減法の計算や $1/10$ の位までの小数と分母が 10 の分数の関係について理解している。
	思考・判断・表現	分数は基準量を任意に等分した単位分数のいくつ分かを表していることに着目して、数の大きさを図に表したり、計算したりする方法を考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	分数を用いることで、整数で表せない等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表せるようになることを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 等分した長さやかさの表し方 下p.36～41 3 時間			
1	[プロローグ] 下p.36 ・1m を 3 等分した 1 こ分の大きさを分数で $1/3m$ と表すことを理解する。 下p.37～38	①p.36 の図を提示し、分数の学習の振り返りを行うとともに、もとの長さの $1/3$ の長さが異なる理由について話し合い、等分したときの大きさの表し方や分数が表す大きさについて理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ①1m のテープを 3 等分した 1 こ分の長さの表し方を考える。 ②1m のテープを 3 等分した 1 こ分の長さを 1m の「三分の一」といい、「$1/3m$」と書くことを知る。 ③$1/3m$ は、その 3 こ分で 1m になる長さであることを確認する。	【知技】既習の分数の表し方を用いて、もとの長さを 1m としたとき、3 等分した 1 こ分の長さを 1m の「三分の一」といい、「$1/3m$」と書くことを理解している。【観察・ノート】 【思判表】「等分」していることに着目して、1m のテープを 3 等分した 1 こ分の長さを、分数での表し方を考え、説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
2	・分数を用いた長さの表し方について、単位分数のいくつ分かを基に考え、説明することができる。 下p.38～39	①1mのテープを3等分した2こ分の長さの表し方を考える。 ②その長さを1mの「三分の二」といい、「$\frac{2}{3}$m」と書くことを知る。	【知技】前時の単位分数を用いた長さの表し方を用いて、$\frac{2}{3}$mは1mを3等分した2こ分の長さであることを理解している。 【観察・ノート】 【思判表】分数で表される大きさについて、等分した大きさや単位分数のいくつ分かに着目して考え、説明している。【観察・ノート】
3	・「分数」「分母」「分子」の意味を知り、液量についても長さと同様に端数部分の大きさを分数での表し方を考え、説明することができる。 下p.40～41	①1Lを5等分した2こ分のかさの表し方を考える。 ②1Lを4等分した1こ分、6等分した4こ分のかさの表し方を考える。 ③「分数」「分母」「分子」の意味を知る。 ④「ますりんつうしん」を読む。	【知技】「分数」や「分母」、「分子」の意味を理解し、分数で表されるかさについて、1Lを何等分したいいくつ分なのかを理解している。【観察・ノート】 【思判表】分数を用いた長さの表し方に着目して、かさについても同様に分数を用いて端数部分の表し方を考え、説明している。【観察・ノート】
(2) 分数のしくみ 下p.42～45 4時間			
4	・分数を数直線に表し、分数の大きさの比較や1mをn等分したもののnこ分は1mになることを理解する。 下p.42	①数直線を用いて、$\frac{4}{5}$mと$\frac{3}{5}$mの長さの比較を行う。 ②$\frac{4}{5}$mと$\frac{3}{5}$mの長さを比べ、違いは1目盛り何こ分かを考える。 ③$\frac{5}{5}$mは1mと同じ大きさであることを確認する。 ④1mを6等分した数直線から長さをそれぞれ求める。	【知技】数直線を用いて、長さを分数で表したり、分数で表された長さの比較をしたりすることができる。【観察・ノート】 【思判表】0と1の間を何等分しているのかに着目して、長さの端数部分を分数で表す方法を考え、説明している。【観察・ノート】
5	・単位分数の何こ分という表し方を基に、1よりも大きい分数の表し方を考え、説明することができる。 下p.43	①$\frac{1}{5}$mの6こ分、7こ分、…の長さは何mか考える。 ②$\frac{10}{5}$mは2mと同じ大きさであることを確認する。	【思判表】単位分数の何こ分という表し方に着目して、1よりも大きい分数の表し方を考え、説明している。【観察・ノート】 【態度】等分する数だけでなく、等分する数と基準量の両方に着目しなければならぬことに気づくなど自分の考えを振り返り、学習に生かそうとしている。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
6	・ 3/4m と、基準量の 3/4 の違いについて理解する。 下p.44	①図を見て、色を塗った部分の長さが 2m のいくつ分の長さなのかを考える。 ②1m を何等分しているかに着目し、図の色を塗った部分の長さを分数で表す。 ③3/4m とは、もとの長さ 1m の 3/4 の長さであることを確認する。	[知技]等分した数や基準量を用いて分数で表される量や割合について理解している。【観察・ノート】 [思判表]基準量に着目し、3/4m と基準量の 3/4 の違いを考え、説明している。【観察・ノート】
7	・ 分母が10の分数と1/10の位までの小数の関係について理解する。 下p.45	①1/10 を単位とした数直線を基に分数の大きさや、分数と小数の関係について考え、1/10=0.1 であることを理解する。 ②小数第一位を「1/10 の位」ともいうことを知る。	[知技]数直線上に表された1/10を単位分数とした数について、その大きさや小数との関係を理解している。【観察・ノート】 [思判表]0.1 の表す意味や1/10の表す意味に着目して、分数で表される大きさと小数の関係を考え、説明している。【観察・ノート】
(3) 分数のしくみとたし算、ひき算 下p.46～47 2時間			
8	・ 分数の表し方と仕組みに着目し、同分母の分数の加法及び減法の計算方法を考え、説明することができる。 下p.46～47	①分数 (3/10 と 2/10) について、加法が用いることができるか考える。 ②小数の加法の計算と同様に、1/10 の何こ分で考えればよいことをまとめる。	[知技]分数の加減法の計算についても、小数の計算と同様に整数の計算で考えられることを理解し、計算することができる。【観察・ノート】 [思判表]単位分数の何こ分かに着目し、整数と同じように分数の加減法の計算ができることを式や図を用いて考え、説明している。【観察・ノート】
9		①分数 (4/5 と 2/5) について、減法が用いることができるか考える。 ②前時の学習を生かして、1/5 の何こ分で考えれば整数と同じように計算できることをまとめる。	
まとめ 下p.48～49, 126 1時間			
10	・ 学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下p.48～49	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	[知技]基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 [思判表]数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 [態度]単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】
・【発展】巻末 p.126 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に分数で表される大きさについて理解を深める。			

単元名	15. □を使って場面を式に表そう [□を使った式]			教科書の ページ	下 p.50～57, 127
配当時間	4 時間	活動時期	1 月中旬	学習指導要 領の内容	A(7)ア(ア), イ(ア)

単元の目標		未知の数量を表す□を用いて数量の関係を式に表すことについて理解し、数量の関係を式に表したり、□に数をあてはまる数を調べられるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して数量の関係を簡潔に表したり、式の意味を読み取ったりする力を養い、数量の関係を表す式を考察した過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	数量の関係を表す式に未知の数量を表す□を用いることを理解し、それらを活用して問題場面を式や図に表したり、式の意味を読み取って問題場面を考え、□にあてはまる数の調べ方を理解したりしている。
	思考・判断・表現	数量の関係や問題場面に着目し、数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連づけて読み取ったりすることを通して未知の数量を表す□を用いた式について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	未知の数量を□を用いて表すことで、問題場面を式や図に表せることのよさを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) □を使った式 下p.50～55 3 時間			
1	[プロローグ] 下p.50 ・未知数があっても□を用いると文脈の通りに式で表せることや、その□にあてはまる数の調べ方を理解する。 下p.51～54	①p.50 のコマ絵を提示し、各問題場面を式に表すことを通して、これまでの学習を振り返りながら問題場面を式に表すという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ①文脈に沿って、未知数□を用いて、加法の式に表す。 ②表した式について、線分図を使って問題場面と対応させ、確認する。 ③□にあてはまる数の求め方を、代入法や図を使って考える。	【知技】数量の関係を未知数□を用いて式に表し、□にあてはまる数を求めることができる。【観察・ノート】 【思判表】数量の関係を図や式を用いて簡潔に表す方法を考え、説明している。【観察・ノート】
2		①文脈に沿って、未知数□を用いて、減法や乗法の式に表す。 ②表した式について、図や数直線を使って問題場面と対応させ、確認する。 ③□にあてはまる数の求め方を、代入法や図を使って考える。	【態度】文脈の通りに場面を式に表したことを振り返り、学習に生かそうとしている。【観察・ノート】
3	・□を含む式から問題場面をつくる方法を、□を用いて問題場面を式に表したことを基に考え、説明することができる。 下p.55	①イラストを見て、問題場面をとらえる。 ②それぞれの式で、□が何を表しているのかを考え、式にしたがって問題をつくる。 ③できた問題場面を、式と対応させて確認する。	【思判表】式に含まれている数が何を表しているかに着目して、式から具体的な問題場面を考え、説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 下p.56～57, 127 1時間			
4	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下p.56～57	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。【観察・ノート】
【発展】 巻末 p.127 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、単元の学習内容を基に未知の数量と逆思考について理解を深める。			

単元名	16. かけ算の筆算を考えよう [かけ算の筆算(2)]			教科書の ページ	下 p.58～68, 128
配当時間	10 時間	活動時期	1 月中旬～ 2 月上旬	学習指導要 領の内容	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア) 内容の取扱い(2)

単元の目標		2～3 位数に 2 位数をかける乗法の計算について理解し、その計算が確実にできるようにし、乗法について成り立つきまりについて理解することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、計算した過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	2～3 位数×1 位数の乗法の筆算の仕方を活用して、2～3 位数×2 位数の乗法を筆算で計算することができる。
	思考・判断・表現	数の構成や乗法について成り立つきまり、既習の 2～3 位数×1 位数の筆算の仕方に着目し、2～3 位数×2 位数の筆算の仕方について考え、説明している。
	主体的に学習に 取り組む態度	2～3 位数×2 位数の筆算について、既習の計算方法を基に考えたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 何十をかける計算 下p.58～61 2 時間			
1	[プロローグ] 下p.58 ・ 1 位数×何十の計算の仕方について、図や数直線を基に考え、説明することができる。 下p.59～60	①p.58 の表を提示し、既習の 2～3 位数×1 位数の計算がどの部分にあたるのかや未習を表す部分の計算が 2～3 位数×2 位数であることを見出す活動を通して、未習の 2～3 位数×2 位数の計算方法について理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度) ①問題場面をとらえ、立式する。 ②5×30 の計算の仕方を考える。 ③かける数が 10 倍になると、答えも 10 倍になることをまとめる。 ④1 位数×何十の計算をする。	[知技]図や数直線を用いて、1 位数×何十の計算をすることができる。【観察・ノート】 [思判表]乗法の結合法則に着目して、1 位数×何十の計算方法について考え、説明している。【観察・ノート】
2	・ 式と答えを比較し、乗数を 10 倍にすると答えも 10 倍になることを理解し、その計算ができる。 下p.60～61	①12×30 の計算について考える。 ②2 位数×何十の計算をする。	[知技]乗法のきまりを用いて、2 位数×何十の計算をすることができる。【観察・ノート】 [思判表]式や数の構成に着目して、既習の計算方法を用いて 2 位数×何十の計算の仕方を考え、説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(2) 2けたの数をかける計算 下p.61～65 6時間			
3	・2位数×2位数（部分積がみな2桁で繰り上がりなし）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 下p.61～63	①問題場面をとらえ、立式する。 ② 12×23 の計算の仕方を考える。	【知技】 2位数×2位数（部分積がみな2桁で繰り上がりなし）の筆算をすることができる。 【観察・ノート】 【思判表】 筆算の仕方について、数の構成に着目して計算したことを基に考え、説明している。 【観察・ノート】
4		①筆算の仕方をまとめる。 ②適用問題に取り組む。	
5	・2位数×2位数（部分積が2, 3桁で繰り上がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 下p.63	① 58×46 の筆算の仕方を考える。 ②適用問題に取り組む。	【知技】 2位数×2位数（部分積が2, 3桁で繰り上がりあり）の筆算をすることができる。 【観察・ノート】
6	・2位数×2位数（乗数の末尾に0がある）の簡便な計算の仕方や1位数×2位数の計算の仕方を乗法のきまり性質を基に考え、説明することができる。 下p.64	① 86×30 の簡便な筆算の方法を考える。 ② 3×46 の筆算と 46×3 の筆算を比べてどちらが計算しやすいか考える。	【知技】 乗法のきまりや性質を基に工夫して、計算することができる。 【観察・ノート】 【思判表】 位の数字や桁数に着目して、乗法のきまりや性質を用いて簡単に計算する方法を考え、説明している。 【観察・ノート】
7	・3位数×2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 下p.65	① 587×34 の筆算の仕方を、既習の筆算を基に考える。 ②桁数が増えても、既習の筆算と同じように計算できることをまとめる。	【知技】 既習の筆算の計算方法を基に、3位数×2位数の筆算をすることができる。 【観察・ノート】 【思判表】 3位数×2位数の筆算の仕方を、既習の筆算の仕方を基に類推して考え、説明している。 【観察・ノート】 【態度】 3位数×2位数の筆算について、既習の筆算の計算方法を基に考えたことを振り返り、学習に生かそうとしている。 【観察・ノート】
8		①乗法の筆算を練習する	

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(3) 暗算 下p.66 1時間			
9	・簡単な場合の2位数×1位数の暗算の仕方を理解し,その暗算ができる。 下p.66	① 23×3 , 230×3 , 23×30 の暗算の仕方を考える。 ② $25 \times 4 = 100$ を基にして, 25×8 の暗算の仕方を考える。 ③ 8×25 の暗算の仕方を考える。	【知技】簡単な場合の2位数×1位数の暗算の仕方について理解し,計算することができる。【観察・ノート】 【思判表】被乗数や乗数に着目し,簡単な計算方法について考え,説明している。【観察・ノート】
まとめ 下p.67~68, 128 1時間			
10	・学習内容の定着を確認するとともに,数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下p.67~68	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら,単元の学習を整理している。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り,価値づけたり,今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】
・【発展】 巻末 p.128 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み,単元の学習内容を基に乗数の桁数が大きくなるときのかけ算の筆算について理解を深める。			

単元名	おぼえているかな？			教科書のページ	下 p.69
配当時数	—	活動時期	2月上旬	学習指導要領の内容	—

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	・既習内容の理解を確認する。 下p.69	①「おぼえているかな？」に取り組む。	【知技】 既習内容に関する問題を解決することができる。 【観察・ノート】

単元名	倍の計算			教科書のページ	下 p.70～73
配当時数	3 時間	活動時期	2 月中旬	学習指導要領の内容	A(3)(4)(7)

単元の目標		数量の関係や倍の意味について理解し、比較量や基準量、割合を求められるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して倍の意味を図や式を用いて考える力を養い、二つの数量の関係を考察した過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	数量の関係や倍の意味を理解し、問題場面に応じてテープ図や□を使った式などを用いながら、答えを求めることができる。
	思考・判断・表現	問題場面や数量の関係に着目し、倍の意味や計算方法について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	問題場面や数量の関係、倍の意味について考えた過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 倍の計算 下p.70～73 3 時間			
1	・比較量を求める場合は乗法を用いればよいことを、図や式を用いて考え、説明することができる。 下p.70～71	①自分の「あた」や「つか」の長さを調べる。 ②15 cmの4 倍の長さの求め方を考える。 ③比較量を求めるときには、乗法を使うことをまとめる。	【知技】数量の関係やテープ図、式を用いて、比較量を求めることができる。【観察・ノート】 【思判表】比較量の求め方を、数量の関係やテープ図、式などを用いて考え、説明している。【観察・ノート】
2	・倍を求める場合は除法を用いればよいことを、図や式を用いて考え、説明することができる。 下p.72	①40m が 5m の何倍かを求める方法を考える。 ②何倍かを求めるには除法を使えばよいことをまとめる。	【知技】数量の関係やテープ図、式などを用いて、倍を求めることができる。【観察・ノート】 【思判表】倍の求め方を、数量の関係やテープ図、式などを活用して考え、説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
3	・基準量を求める場合には、□を用いて乗法の式に表し、除法を用いて□を求めればよいことを、図や式を用いて説明することができる。 下p.73	①数量の関係をテープ図や数直線に表して考え、□を用いた乗法の式に表す。 ②□にあてはまる数を求めるには、除法を用いることをおさえる。	【知技】数量の関係をテープ図や数直線、□を使った式などを用いて考え、基準量を求めることができる。【観察・ノート】 【思判表】基準量の求め方を、数量の関係や図、□を使った用いた式などを用いて考え、説明している。【観察・ノート】 【態度】□を使った乗法の式を用いて基準量を求めたことを振り返り、学習に生かそうとしている。【観察・ノート】

単元名	17. 三角形を調べよう [三角形と角]			教科書のページ	下 p.74～89
配当時数	8 時間	活動時期	2 月下旬～ 3 月上旬	学習指導要領の内容	B(1)ア(7)(イ), イ(7)内容の取扱い(6)

単元の目標		円を用いた作図を通して二等辺三角形や正三角形の辺の特徴や角の大きさについて理解し、図形の特徴をとらえることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して図形を構成する要素や構成の仕方を考える力を養い、辺の長さや角の大きさに着目し、図形を考察した過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	二等辺三角形や正三角形の辺の特徴や角の大きさについて知り、それらを活用してそれぞれの図形の意味や性質、作図の方法を理解している。
	思考・判断・表現	図形を構成する要素に着目し、二等辺三角形や正三角形の性質を考えるとともに、それらの作図の仕方について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	辺の長さや角の大きさなどの図形を構成する要素に着目し、身の回りのものの形を図形としてとらえたことを振り返り、図形の敷き詰めなどの活動によって模様の美しさや平面の広がりを感じ、今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 二等辺三角形と正三角形 下p.74～83 4 時間 ★他教科との関連: 英語			
1	[プロローグ] 下p.74 ・ 辺の長さに着目して三角形を弁別し、二等辺三角形や正三角形の意味や性質について理解する。 下p.75～76	①p.74 の写真を提示し、身の回りの三角形に着目させるとともに、円周上に点を 12 個等間隔に打った図を用いて、円周上の点や中心を直線で結んで三角形をつくり、分類する活動を通して、三角形を構成する要素に着目し二等辺三角形や正三角形について理解するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 15 分程度) ①円周上の等間隔の点を結んで、いろいろな三角形をつくり、できた三角形を辺の長さに着目して弁別する。 ②「二等辺三角形」「正三角形」の意味や性質を理解し、探したり選んだりする。	【知技】三角形の辺の特徴を用いて、二等辺三角形や正三角形の意味や性質について理解し、弁別することができる。【観察・ノート】 【思判表】辺の長さに着目して、三角形の弁別の仕方を考え、説明している。 【観察・ノート】
2	・ 二等辺三角形の作図の仕方を理解し、作図することができる。 下p.77	①底辺が 3cm で 2 つの辺が 4cm の二等辺三角形のかき方を考える。 ②コンパスと定規を用いて、二等辺三角形を作図する。 ③二等辺三角形の作図練習をする。	【知技】二等辺三角形の特徴やコンパスのもつ性質を用いて、作図をすることができる。【観察・ノート】 【思判表】コンパスのもつ性質に着目して、二等辺三角形の簡単な作図の仕方を考え、説明している。 【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
3	・正三角形の作図の仕方を,二等辺三角形の作図の仕方を基に考え,説明することができる。 下p.78	①3辺が4cmの正三角形のかき方を考える。 ②コンパスと定規を用いて,正三角形を作図する。 ③正三角形の作図練習をする。	【知技】正三角形の辺の特徴や二等辺三角形の作図方法を基に,正三角形の作図方法を理解し,作図することができる。【観察・ノート】 【思判表】正三角形の作図の方法について,辺の長さに着目して,二等辺三角形の作図の仕方を基に作図方法を考え,説明している。【観察・ノート】
4	【今日の深い学び】 ・二等辺三角形や正三角形の作図の仕方を,円の性質を用いて考え,説明することができる。 下p.79～83	①ノートにかいた半径 3 cmの円を用いて,中心と円周上に2つの点を結びいろいろな三角形をかき,どれも二等辺三角形になることを確認する。 * デジタルコンテンツ設定有 ②円周上のどの 2 点をとっても二等辺三角形になる理由を考え,説明する。 ③正三角形をかくには,円周上の2点をどのようにとればよいか考える。 ④円の性質を使うと,二等辺三角形や正三角形がかけれることをまとめる。	【思判表】既習の円の性質や二等辺三角形や正三角形の意味や性質に着目して,作図の方法や作図できた理由を考え,説明している。【観察・ノート】 【態度】二等辺三角形や正三角形の意味や性質,円の性質を振り返り,円を用いた作図に生かそうとしている。【観察・ノート】
(2) 三角形と角 下p.84～87 2時間			
5	・角の意味や角の大きさの相等や大小を理解し,調べることができる。 下p.84～85	①三角定規で,直角や他の鋭角を紙に写し取り,一番とがっている角を探す。 ②「角」および角の大きさの意味を知る。 ③紙に写し取った三角定規の角を用いて,角の大きさを比べる。 ④角の大きさは辺の長さに依存しないことをまとめる。	【知技】角の意味や大きさについて理解し,角の大きさは辺の長さに依存しないことを理解している。【観察・ノート】 【思判表】角の大きさの相等や大小について,間接比較を行い,説明している。【観察・ノート】
6	・二等辺三角形や正三角形の角の特徴を理解する。 下p.86～87	①二等辺三角形と正三角形を紙にかいて切り抜き,それぞれの3つの角の大きさを調べる。 ②二等辺三角形,正三角形の角の性質をまとめる。 ③三角定規 2 枚で三角形を構成しながら,二等辺三角形と正三角形の性質の理解を深める。	【知技】二等辺三角形では2つの角が,正三角形では3つの角の大きさが等しいことを理解している。【観察・ノート】 【思判表】二等辺三角形や正三角形のそれぞれの角の大きさを比較した結果に着目し,それぞれの三角形の角の特徴を考え,説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
まとめ 下p.87～89 2時間			
7	単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 下p.87	[いかしてみよう] ①巻末の折り込みにある，二等辺三角形や正三角形を並べて敷き詰め模様をつくる。 ②コンパスや定規を用いて模様をつくる。	【思判表】学習内容を適切に活用して筋道立てて考え，問題を解決している。 【観察・ノート】 【態度】学習内容を生活に生かそうとしている。【観察・ノート】
8	学習内容の定着を確認するとともに，数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下p.88～89	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら，単元の学習を整理している。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り，価値づけたり，今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】

単元名	18. わかりやすく整理して表そう 〔ぼうグラフと表〕			教科書の ページ	下 p.90～104
配当時間	10 時間	活動時期	3 月上旬～中旬	学習指導要 領の内容	D(1)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(8)

単元の目標		日常の事象について、観点別にデータを分類整理することについて理解し、表や棒グラフに表したり読み取ったりすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して表やグラフから見出したことを考察する力を養い、データを整理し考察した過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の 観点別 評価規準	知識・技能	日時や場所などの観点別にデータを分類整理することを理解し、それらを活用して表や棒グラフから項目間の関係や集団のもつ全体的な特徴を読み取ったりすることができる。
	思考・判断・表現	目的に応じてデータを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表や棒グラフを用いて考察したり、見出したことを分かりやすく表したりする方法について考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	データを分類整理したり、それらを基に身の回りの事情について考察したりした過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) 整理のしかたとぼうグラフ 下p.90～96 5 時間			
1	〔プロローグ〕 下p.90	①p.90 のイラストを提示し、けがの種類や場所などについての話し合いなどを通して、身の回りの事象を解決するために、データを見やすく整理し考察するという単元の課題を設定する。 (所要時間は 10 分程度)	
	・データを分類整理する方法や整理した結果を表にまとめる方法を理解する。 下p.91～92	①p.91 の吹き出しを基に、けがの種類別の人数を「正」の字を使って整理する。 ②結果を表に表す。 ③「合計」の意味を知る。	【知技】データを表に適切に分類整理することについて、落ちや重なりがないよう確認したり「その他」の意味について理解したりしている。【観察・ノート】
2		①p.133 の記録を基に、けがの場所と人数を表にまとめる。 ②「その他」の意味を知る。	【態度】目的に応じてデータの整理の仕方考えた過程を振り返り、生活に生かそうとしている。【観察・ノート】
3	・データを棒グラフに表すと、数量の大小や差が分かりやすいことや、棒グラフの読み取り方を理解する。 下p.93～94	①「棒グラフ」について理解する。 ②表と棒グラフを比較し、どんなことがわかりやすくなったかを考える。 ③棒グラフの長さに着目して、棒グラフの特徴をまとめる。	【知技】既習のグラフから類推し、棒グラフの特徴や読み取り方について理解している。【観察・ノート】 【思判表】棒グラフの棒の長さに着目して、棒グラフでデータを整理するよさを考え、説明している。 【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
4	・棒グラフのかき方を理解し、表から棒グラフにかき表すことができる。 下p.94～95	①けがの場所と人数を整理した表を見て、棒グラフに表す。 ②項目のとり方、1目盛りの大きさなどの順に従ってグラフをかく。 * デジタルコンテンツ設定有 ③かいた棒グラフから読み取れることを考える。	[知技]棒グラフのかき方を理解し、データを棒グラフに表すことができる。【観察・ノート】
5	・データを表に分類整理し、棒グラフに表したり、倍の考えを用いてデータの分析をしたりすることができる。 下p.96	①p.133 のデータを正の字を用いて調べ、表に表す。 ②前時に学習した棒グラフのかき方をもとに、グラフにかき表す。 ③棒グラフからデータどうしの関係を倍を用いて表す。 ④整理したデータを用いて、どんなポスターをつくることができるか考える。	[思判表]棒グラフの長さに着目して、データどうしの関係を倍の考えを用いて表現する方法を考え、説明している。【観察・ノート】 [態度]身の回りの事象について考察した過程を振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。【観察・ノート】
(2) ぼうグラフの1めもりの大きさ 下p.97～100 2時間			
6	・数量が横軸に表されている棒グラフを読み取ったり、目盛りの取り方について理解したりすることができる。 下p.97～98	①横軸に数量がかかされているグラフの読み方や昇順に並べない場合があることを知る。 ②1目盛りの表す大きさが異なる場合の読み取り方を知る。 ③表やグラフ用紙から、1目盛りをいくつにすればよいかを考え、グラフに表す。	[知技]横軸に数量がある場合のグラフの読み取り方を理解している。【観察・ノート】 [思判表]数直線と同様に、1目盛りの表す数量に着目して棒グラフを読み取ったり、データにあわせて1目盛りの大きさを決めたりすることについて考え、説明している。【観察・ノート】
7	・同じデータを基にした、1目盛りの表す大きさが異なる3つの棒グラフを比較し、棒グラフの読み取り方や表し方の工夫を理解する。 下p.99～100	①1目盛りの表す大きさの異なる3つのグラフを比較する。 ②棒の長さ等に着目しながら、棒グラフの読み取りをする。 ③棒グラフを組み合わせたグラフを読み取る。	[知技]棒を重ねた棒グラフの読み取り方や表し方の工夫について理解している。【観察・ノート】 [思判表]1目盛りの表す大きさや棒の長さに着目して、グラフを比較し、表し方の工夫について考え、説明している。【観察・ノート】

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(3) 表のくふう 下p.101 1時間			
8	・一次元表を組み合わせた簡単な二次元表を読むことができる。 下p.101	①3か月のけがの種類と人数をまとめた3つの一次元表を読む。 ②3つの表をまとめた二次元表に数を書き入れたあと、この表を読む。 ③二次元表の有用性を考える。	【知技】複数の一次元表を二次元表にまとめることができ、その有用性を理解している。【観察・ノート】 【思判表】複数の一次元表とそれらをまとめた二次元表の違いに着目して、種類別の合計等で項目が比較しやすくなるなどの有用性を考え、説明している。【観察・ノート】
まとめ 下p.102～104 2時間			
9	・単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。 下p.102	〔いかしてみよう〕 ①二次元表からデータを読み取る。 ②二次元表からけが調べのデータを棒グラフに表す。	【思判表】学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。【観察・ノート】 【態度】学習内容を生活に生かそうとしている。【観察・ノート】
10	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 下p.103～104	①「たしかめよう」に取り組む。 ②「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知技】基本的な問題を解決することができる。【観察・ノート】 【思判表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。【観察・ノート】 【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。【観察・ノート】

単元名	そろばん			教科書のページ	下 p.105～107
配当時数	2 時間	活動時期	3 月中旬	学習指導要領の内容	A(8)ア(7)(イ), イ(7)

単元の目標		そろばんによる数の表し方について理解しそろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して大きな数や小数の仕組みを考える力を養うとともに、計算の過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
単元の観点別評価規準	知識・技能	そろばんを用いた加減計算の仕方を理解し、それらを活用して簡単な加減計算をすることができる。
	思考・判断・表現	そろばんの仕組みや十進位取り記数法の仕組みに着目し、数の入れ方や払い方を考え、説明している。
	主体的に学習に取り組む態度	そろばんの仕組みと十進数の仕組みを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
(1) そろばん 下p.105～107 2 時間			
1 ・ 2	・そろばんの各部分の名称を知り,そろばんにおかれた数の読み方や数の入れ方,払い方を理解し,加減法の基本的な計算をすることができる。 下p.105～107	* デジタルコンテンツ設定有 ①そろばんの各部分の名称を知り,そろばんに数を入れたり,払ったりする練習をする。 ② $64+23$, $70+48$ の計算をして, たし算の基本運珠の仕方を知る。 ③ $64-23$, $70-48$ の計算をして, ひき算の基本運珠の仕方を知る。 ④ $1.2+0.4$ や $2.6-0.3$, 4 万+3 万, 6 万-2 万などの計算に取り組み, 小数や大きな数でもそろばんで計算できることを知る。 ⑤「ますりんつうしん」を読み, そろばんの歴史について知り, そろばんへの興味・関心を高める。	【知技】 そろばんを用いた加減法の計算の仕方を理解し, それらを活用して簡単な加減計算をすることができる。 【観察・ノート】 【思判表】 そろばんの仕組みや十進位取り記数法の仕組みに着目し, 数の入れ方や払い方を考え, 説明している。 【観察・ノート】 【態度】 そろばんの仕組みと十進数の仕組みを振り返り, 価値づけている。 【観察・ノート】

単元名	考える力をのばそう「間の数に注目して」			教科書のページ	下 p.108～109
配当時数	1 時間	活動時期	3 月中旬	学習指導要領の内容	A(3)(7)

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
1	直線や円周上に等間隔に配置されたものの数と間の数との関係に着目して、図を用いて問題内容を整理し、考察する力を伸ばす。 下p.108～109	①場面をとらえ、解決の仕方を考える。 ②図を見て、間の数が木の数より 1 小さいことに気づき、答えを求める。 ③場面をとらえ、解決の仕方を考える。 ④図を見て立式し、間の数と木の数が等しいことに気づき、答えを求める。	【知技】図や式を用いて、直線上に配置された場合と円周上に配置された場合の違いを理解している。 【観察・ノート】 【思判表】対応の考えに着目して、直線上に等間隔に配置された場合について、間の数とものの数の関係を考え、説明している。 【観察・ノート】

単元名	3 年のふくしゅう			教科書のページ	下 p.110～114
配当時数	3 時間	活動時期	3 月中旬	学習指導要領の内容	A～D

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
1 2 3	既習内容の理解を確認する。 下p.110～114	①問題を解決する。	【知技】既習内容について解決の仕方を理解し、問題を解決することができる。 【観察・ノート】

単元名	かたちであそぼう「ペントミノ」			教科書のページ	下 p.116
配当時数	—	活動時期	—	学習指導要領の内容	—

時	目標	学習活動	評価の観点と方法の例
—	いくつかの図形を組み合わせて正方形や長方形を作る活動を通して、図形に親しみ、その楽しさを味わう。 下p.116	①正方形を 5 こつなげてできた 12 種類の形をいくつか選んで、正方形や長方形を作る。 * デジタルコンテンツ設定有	【思判表】形の特徴に着目して、正方形や長方形の作り方を考え、表現している。 【観察・ノート】 【態度】主体的に数学的活動に取り組むとともに、図形を工夫して組み合わせて正方形や長方形を作ろうとしている。 【観察・ノート】